

R7 教職員による自己評価及び第三者評価 資料

■ 達成状況 A: 達成されている(3.2以上) B: ほぼ達成されている(2.4~3.1) C: あまり達成されていない(1.6~2.3) D: 達成されていない(1.5以下)

■ 自己評価の適切さ A: 適切な評価である B: ほぼ適切な評価である C: やや不適切な評価である D: 不適切な評価である

■ 改善に向けた取組の適切さ A: 十分な効果が期待できる B: ある程度の効果が期待できる C: あまり効果が期待できない D: 改善を要する

評価項目(成果指標)	評価	達成状況	改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校関係者の意見等
■ めざす学校像 高い次元の文武両道を目指し夢が実現できる学校	評価平均値 1.0 …… 4.0	A ~ D	次の3点を検討する。	A ~ D	A ~ D	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価は適切である。 ■ 改善策は学校像、生徒像、教師像に分けて提示した方がよい。 ■ 教職員はオーバーワークなほど熱心に指導している。さらに高みを求めるには教職員の定数や待遇を変えていく必要がある。また、フィールド制を生かしたキャリアに結び付く学習が、生徒の学習意欲につながることを期待する。 ■ 部活動はそれぞれ良い成績を残している。大会等で公欠生徒も多いので、特進だけでなく全生徒に講習、補習の機会があるとよい。今よりさらに進路の広がりが望めるだろう。 ■ 教職員が不在となることも多いので、担任、副担任間の連絡を密にして、連絡事項、配布物、提出物等の滞りがないようにすることが大切である。 ■ 生徒の意識も高く、素行の悪い生徒もなく、指導の成果が表れていると思う。目指す教師像について、3つの指標をさらに具体化したものを加えると評価もしやすく、今後の課題も明らかになるだろう。 ■ 社会における人材への価値観の変容から、課題発見・問題解決能力、判断力、表現力の一層の育成を図るよう、授業内容を強化する必要がある。 ■ 現在の大学入試制度に対応できる学力の育成とAO入試、自己推薦入試に対応できる多様な人材の育成が求められる。 ■ コロナや世界の大規模な紛争によってSDGsの取り組みや国際交流が難しい状況になっている。現状に合った運営の重点に変更した方がよい。 ■ 龍谷高のボランティア活動については、形を変えながらも現在も継続されていると思う。高校生にとって社会貢献の意識をもつことは非常に重要であり、今後も取組を継続していただくことを望む。 ■ 国際人を育成することについて、具体的な目標を設定するとよい。留学などに消極的な生徒もいるので、学校がもっとアピールしてもよいのではないかと。 ■ キャリアの選抜クラスについて入試前に説明すべきである。資格を取るためにしっかり学習に励む生徒が多いことを説明するとよいだろう。 ■ 車での送迎について、保護者のマナーが改善されるようルールをしっかりと伝えるべきである。 ■ 近未来を見通し、新しい価値観、多様性への理解を含めた国際社会への理解を促す教育的な視野が必要である。例えば「東川日本語学校」との交流なども検討してはどうか。 ■ 龍谷高OBとの交流や社会で活躍されている方々との交流の機会も大切である。
■ めざす生徒像 持続可能な社会の創り手となる生徒	評価平均値 1.0 …… 4.0	A ~ D	次を3点を検討する。 ■ 本校で行っている習熟度別授業、講習、補習、放課後学習会、自習室の運営、職員室前の質問コーナーの設置、スタディサブリの活用など、その在り方を再検討し、授業を補完しながらより効果的な運用がなされるよう内容検討を行う。 ■ 生徒を主語とした授業(教師が何を教えたかではなく、生徒がどんな学び方でどんな力を獲得したのか)などをテーマに研修を通じて授業の質的改善を図る。 ■ 本校の特性を十分に踏まえつつ、大会引率や生徒募集等で学校を不在とする教員の人数や回数に一定のルールを設定する。 教職員、生徒、保護者の自由記述を受けた本校の対応	A ~ D	A ~ D	
■ めざす教師像 自校に誇りを持ち生徒のために自らも成長し続ける教師	評価平均値 1.0 …… 4.0	A ~ D	■ 評価、成績処理に関する研修機会の設定 ■ キャリアデザインコース … ICTIによる学力向上と就職希望者に対する指導体制の強化 ■ 特進コース … 受験指導の一層の充実と個別最適な学習に向けた体制づくり ■ 保護者との情報共有及び家庭と学校が連携した指導・支援 ■ 生徒指導部の増員と選考が一体となった組織体制の確立 ■ 学内 … スクールカウンセラー、養護教諭、未来教育推進室の連携強化 ■ 学外 … 学校弁護士、道警サポートセンター、旭川東警察署、児童相談所との連携強化 ■ 保護者会と生徒会のコラボによるコミュニケーションの機会拡大 ■ 家庭と関係機関との橋渡し役としての本校の具現化 ■ 情報を適切に活用する力の増進と「デジタル・シティズンシップ教育」の推進 ■ 優先順位を付けた校内の環境整備 ■ 通学しやすい環境の整備に向けた検討 ■ 朝練や放課後における部活動の有意義な過ごし方やマナーの再確認 ■ 試験1週間前の学習時間の確保	A ~ D	A ~ D	
■ 学校運営の重点	評価平均値 1.0 …… 4.0	A ~ D	次を4点を検討する。 ■ ICR、IACの活動の意義を再定義するとともに、ESDや国際理解教育に精通する専門性の高い教員配置を行う。 ■ 本校独自の海外留学制度を設定するなど、魅力ある事業の立ち上げを検討する。 ■ 本校のパンフレットで示されているフィールドのカリキュラム構成や教科の選択範囲、職業・進路選択への結びつきなどについて、生徒募集の説明会でよりわかりやすく説明すべきである。 ■ 特進コースが少人数化している現実をとらえ、「今どき」の中学生のニーズを捉えたカリキュラム構成を検討する必要がある。検討の際、土曜日授業や平日7時間授業という根本的な部分の検討も排除しない。	A ~ D	A ~ D	
1 知徳体にわたる「生きる力」を育む学校になっている。	2.9	B		A	B	
2 一人ひとりの夢や目標を確実に実現できる学校になっている。	3.1	B		A	B	
3 社会に役立つ人材を育てる学校になっている。	3.0	B		A	B	
4 「報恩感謝」の心を大事にする生徒に育てている。	2.8	B		A	B	
5 学力の3要素を確実に身に付ける生徒に育てている。(①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)	2.6	B		A	B	
6 自らの健康の増進と体力の向上に励む生徒に育てている。	3.2	A		A	B	
7 教師集団の一員としての自覚をもって行動する教師になっている。	3.0	B		A	B	
8 自らが創意工夫して常に高い教育を目指す教師になっている。	3.0	B		A	B	
9 様々な困難を抱える生徒に共感的な支援ができる教師になっている。	3.0	B		A	B	
10 龍谷の強みを生かした教育を展開することができた。	2.8	B		A	B	
11 「まごころある国際人」を育成する教育を展開することができた。	2.2	C		A	B	
12 「豊かな未来社会の創成に寄与できる人材」を育成するカリキュラムを展開することができた。	2.5	B		A	B	
13 「龍谷の目指す教育」を実現する為に必要な教職員の資質向上の取組を強化することができた。	2.6	B		A	B	
14 「2コース制6フィールド」の構築に向けた学習内容の研究と教職員研修を充実させることができた。	2.4	C		A	B	
15 「新しい龍谷」の多様性を推進することができた。	2.5	B		A	B	